

ホットスプリングス訪問報告

「雑感」 引率教諭 切田 壮

○3月7日から15日までアメリカ・アーカンソー州、ホットスプリング市に生徒4名を連れて訪問してきました。短期間ということもあり、アメリカの教育や文化について調査し発表するところまでは残念ながらいきません。まさに「雑感」ということで報告させていただきます。

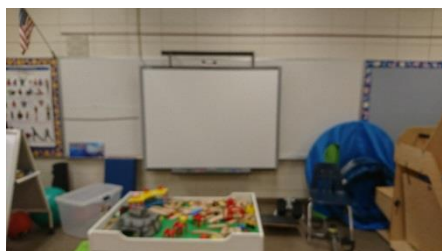
○ASMSA の授業について

ASMAS に限らないかもしれませんが、少人数制教育を基本としています。物理の授業を最初に見ましたが、「この授業はちょっと人数が多くて」と言われて「何人ですか?」と質問すると、「19人です」とのことでした。19人多い方になるわけで、もっと少ない人数の授業もありました。



ASMSA の授業
(物理)

タイムトラベルの授業だと言われて聞いてみましたが、さすがに物理の用語にはついていけず、内容理解にはほど遠かったです。授業は対話形式とは言わないのですが、先生と生徒の対話が切れ目なく続きました。そもそも19人しかいないわけで、それが対話中心に進んでいくととても居眠りなんか無理かと思いました。ですが、実際には1名だけ途中でだらけて眠ったようになっていました。どこにでもそんな生徒はいるものです。



教室における機器

ほとんどのアメリカの学校は黒板をもはや使っていないそうです。ある ALT が日本に来て驚いたことの1つが黒板だと言っていました。全教室に電子黒板（その名称が正しいか不安であるが）導入され、パソコンと連動しパソコンの画面を投影したり、直接書き込むなど活用していました。サイズはけっこう小さく、日本の黒板の半分以下くらいです。授業が対話中心に行われていすから、実は教員が板書する量が極めて少ない。だからこのサイズでもできるのだと感じました。日本式の授業中に黒板を2~3回消すくらいの量だとサイズが小さくて不向きです。日本になかなか導入されない理由はこの点にあるのかも知れません。



ASMSA の授業
(日本語: 文学)
「こころ」の登場人物について生徒が説明

日本語の授業も見せてもらいました。夏目漱石の「こころ」の授業には正直驚きました。主人公と他の2名の人物の関係について説明するところから始まり、多くの生徒が手を上げて自分の考えを述べたわけですが、「自分の考えを述べる」ように教育されてきている印象を受けました。多分、日本文学的には生徒の発言は間違っている可能性もあるわけですが、そんなことよりいかに自分の考えを伝えるかが大切なのでしょう。そのように私には見えました。実際に日本語で書かれたものを読んでいたわけではありません。英訳版を読んでいた。日本語を読むのはまだ難しいようでした。



ASMSA の授業
(日本語：文
学)

日本語教師はベティーさんという女性ですが、発音に関して質問をしてみました。「キック」の真ん中に挟まっている「小さいッ」はどうやって教えていますか？」と。日本人には当たり前に発音できてもアメリカ人には難しい発音もあります。当然その逆は英語を学習している日本人がよく感じていることです。答えは「お腹にパンチ（した時にでる音）」だそうです。なるほどと納得しました。

○他校訪問について

今回は2つの学校を訪問することができました。ファウンテンレイクス쿨とレイクサイドスクールという学校で小学校入学前の子どもから高校生までが通う大規模の学校でした。



ファウンテンレイクの
マスコットはなぜ
カobra
(もちろん)
Cobraはいない)

どの学校も広大な敷地に贅沢な施設が並ぶ素晴らしい学校であり、日本で言えば大学のような規模の学校でした。率直になぜこんなにお金があるのか聞いてみましたが、「教育にはお金をかける」という意識が強いらしく、みんなで良い教育を受けさせたいという気持ちが伝わってきました。施設設備だけが良い教育の判断基準ではありませんが、うらやましい一言に尽きます。校舎内部

だけではなく、野球場も公立高校が持てるものではありませんでした。



レイクサイドス
クールの競技
場

コンピューターの導入に関してはアメリカの方がかなり進んでいると言えます。小学校1年生程度からコンピューターを習い始め、学年が上がるにつれてノートパソコンを自宅にもって帰ることが許されます。小学生が算数の勉強にノートパソコンを使っているのを見ましたが、授業に見事にマッチしているようでだいぶ慣れてる感じがありました。ただし、低学年の生徒は長時間は使わせていないようで、10分程度とのことでした。コンピューターを活用できるツールとしてとらえてどんどん活用していく。そのために全員分のパソコンを揃えるといった姿勢でした。また、ノートパソコンが全員にあるのに、立派なコンピューター室は別にあるわけですから驚きです。



コンピューターを
使った授業
(小学生)

図書館についても考え方は日本とは違って「アクティブ」な図書館だと言われました。静かに本を読み、自習する場ではないようです。低学年用の図書館にはおもちゃも置いてありアクティブに騒ぎながら楽しんで活動していました。考え方の違いが図書館の活用の仕方に反映して

いるわけで「良い悪い」の問題ではないようです。おもしろいことに、ゲームスペースがあって時間を決めてゲームをしても良いという図書館もありました。日本のゲーム機も置いてあり楽しくゲームができるようです。ゲームは勉強の阻害要因となると決めつけず、ゲームに取り組むのも個人の自由であるとしているのかも知れませんが、だからといって花北ですぐに取り入れようとはなりません。考え方の違いは様々な面に現れます。それを感じることも高校生にとって貴重な経験になるはずです。



ゲームコーナー
15分間の
時間制限
が書いて
ある。

英語の教員として興味を持ったことの一つに小学生のクラスに英語の発音の仕方が貼ってあったことです。



「L」「R」を発音する
ときの口の形が示
してある。

アメリカ生まれの子どもであっても発音の練習をするらしく驚きました。正しい発音の仕方を練習して言葉を身につけているようです。まして日本人ならなおさらでしっかりとした練習が必要となります。正しいトレーニングの必要性を感じました。

レイクサイドスクールでは教員の数を聞いてみましたが、約250人とのこと。顔を覚えるのが大変であると言っていました。日本の大学のような規模で運営しているようです。教員の他に事務員さん、カフェテリアの従業員さんまで含めるといったい何人になるのか想像も付きません。



レイクサイドスクールの講堂
(ほぼ劇場)

○アメリカの文化

教会に連れて行ってもらいました。1時間に及ぶお祈りから神父さんの話まで真面目に聞いてきました。キリスト教とアメリカ人について少しかもしれませんが、触れることができとても印象に残っております。日曜日には教会に行く。何パーセントのアメリカ人が行っている習慣かはわかりませんが、毎週行ってお祈りしている人もいます。また、街中に見かけた教会の数は私が気付いただけでも4つ。おそらくは多くの教会



があって市民の文化に密接に結びついているのだと感じました。私は英語の教員ですから神父が話す英語に興味があったわけですが、現代は使わないような英語が混ぜられていて理解に苦しむフレーズもありました。教科書では絶対に習わない

英語に触れて楽しくもありました。

○日本のマンガは人気

日本のアニメはやはり人気があるようで、日本語を学びたい生徒の動機にはアニメがあるそうです。図書館には日本のマンガの英訳が並べられ

ており「Manga」でも通じるようです。動機がなんであれ日本に興味を持ってもらえたら嬉しいですが、けっしてドラゴンボールやワンピースの世界が日本であるとは思わないように願います。



図書館にある
日本のマンガ

○アメリカ教育の「別」の部分

学校訪問をすると当然ではあるがその学校の良い点を紹介される。良いところは余計目立つし、印象に残る。アメリカでもそうでした。だが、思い切ってお世話役の人に「アメリカの教育で問題点は何ですか」と聞いてみました。その人の答えは貧困でした。今回見せてもらった学校はどれも施設設備が素晴らしく日本の学校現場はととても太刀打ちできるものでありません。しかし貧困は教育現場に大きな問題となって表れているらしく「お金のないところにはお金がない」とのことでした。アメリカに長期的に住まない限りは絶対に見ることができない部分だと思います。それぞれの国がそれぞれ問題を抱えているわけです。

もう一つ感じたことは、やはり「安全」に対する意識の違いでした。ほぼすべての教室がロックされており建物の内部にいても教室に入るには鍵が必要な場合が多くありました。私は鍵を開けてもらってから教室に入り授業を見せてもらいました。それが当然になっているのでしょうか、安全性に留意して学校教育が行われる点は、日本も外部からの不審者等には気を配っていますが、比較できないレベルの話です。今回訪問した学校には警察官がいて、常駐しているようでした。あまり見ることでできない別な面を見たように思

います。



竜巻用の
避難施設
アメリカなら
ではの施設

○最後に

ASMSA の教職員のみなさまには本当にお世話になりました。何時に到着するかはっきりしない我々をずっとホテルの前で待っていてくれた職員もいました。町の様々な場所に案内して丁寧に説明もしてもらいました。また、ホストステUDENTも親切丁寧に花北の生徒の相手をしてくれました。生徒達にとっても充実した研修になったと思います。今回の派遣事業に係りました多くの方々にこの場を借りて感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

今回が2年目の派遣事業であり、初の単独の（花北だけの）訪問でしたが、この姉妹校として関係を大切に、毎年数名の生徒を派遣できれば良いのではと考えます。



教室には PC が
完備



ASMSA
全校集会
の様子